

出雲市中小企業景況調査報告書

＜2022年10月～12月期＞

1. 調査期間 令和5年1月6日（金）～令和4年1月27日（金）

2. 調査対象企業 出雲市内事業所180社 回答数159社 回答率88.3%

業種	出雲商工会議所管内		平田商工会議所管内		出雲商工会管内		斐川町商工会管内		合計	
	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数	対象企業数	回答企業数
建設業	13	12	4	4	4	4	4	3	25	23
製造業	18	17	7	7	6	6	5	3	36	33
卸売業	9	8	2	2	3	3	3	3	17	16
小売業	23	19	9	9	8	8	9	6	49	42
サービス業	27	23	8	8	9	8	9	6	53	45
合計	90	79	30	30	30	29	30	21	180	159

3. 調査実施機関 出雲商工会議所、平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会

今 期（2022年10－12月）の 概 要

本調査は、出雲商工会議所が平田商工会議所、出雲商工会、斐川町商工会と共同で市内事業所から調査対象事業所180社を選定し実施しています。

概 況（前期調査＝2022年7－9月期）

全業種の業況D Iは、前期比の業況D Iで0.0（前期調査△7.8）、前年同期比で△3.9（前期調査△1.8）と前期比はマイナス幅が縮小し、前年同期比ではマイナス幅が拡大しました。

来期（令和5年1～3月期）の見通し業況D Iは、△20.5（前期調査0.0）とマイナス幅が拡大しました。

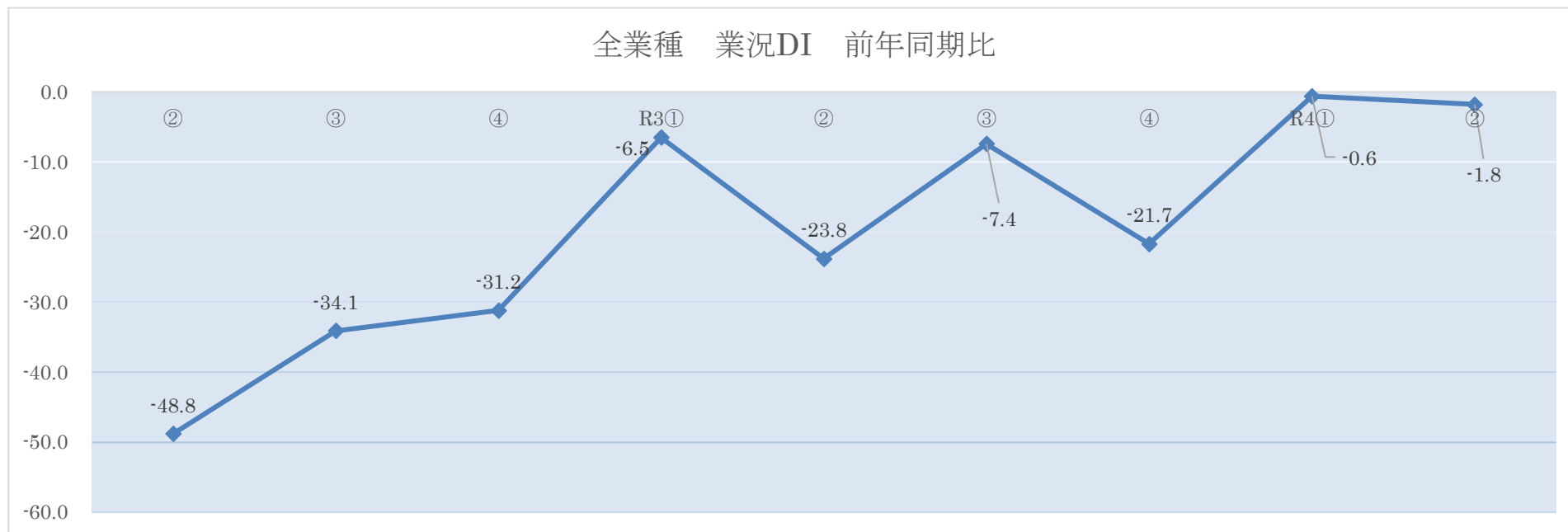
全業種の売上D Iは、前期比では20.1（前期調査△6.5）とマイナスからプラスに転じました。前年同期比でも△1.9（前期調査△1.8）と、マイナス幅が拡大しました。

来期（令和5年1～3月期）の見通し売上D Iは、△15.9（前期調査10.1）とプラスからマイナスに転じました。

設備投資については、今期実施した割合が37.7%（前期調査39.6%）と前期調査より減少しました。実施した設備投資の主なものは、「機械・備品」33.3%、続いて「OA機器」21.2%でした。

来期（令和5年1～3月期）については、設備投資を計画している割合は39.8%（前期調査43.5%）と前期調査より減少しました。割合の高い順に「車両運搬具」25.7%、続いて「機械・備品」24.3%、「OA機器」21.4%となっています。

経営上の問題点としては、「需要の停滞、受注減少」を1位にあげる事業所が33.3%（前期調査30.2%）、2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」20.6%（前期調査30.2%）となっています。



業種別景況調査の主要 DI (前期調査=2022年7-9月期)

1、建設業

- ・今期業況DIは、前期比で△8.7 (前期調査△12.5)、前年同期比で△13.0 (前期調査△12.5) と前期比ではマイナス幅が縮小し、前年同期比ではマイナス幅が拡大しました。
- ・売上DIは、前期比で8.7 (前期調査△25.0)、前年同期比で△4.3 (前期調査△29.2) と前期比ではマイナスからプラスに転じ、前年同期比ではマイナス幅が縮小しました。
- ・来期業況見通しDIは、今期比で△8.7 (前期調査△12.5)、来期売上見通しDIは、今期比で△13.0 (前期調査0.0) と来期業況見通しDIではマイナス幅が縮小し、来期売上見通しDIはマイナス幅が拡大しました。
前期に引き続き、材料価格が値上がり、利益の確保が難しいといった意見がありました。

2、製造業

- ・今期業況D Iは、前期比で△15.2（前期調査5.9）、前年同期比で△9.4（前期調査11.8）と前期比、前年同期比ともにプラスからマイナスに転じました。
- ・売上D Iでも、前期比で6.1（前期調査2.9）、前年同期比で△3.1（前期調査11.8）と前期比でプラス幅が拡大し、プラスからマイナスに転じました。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△25.0（前期調査△5.9）、来期売上見通しD Iは、今期比で△15.6（前期調査5.9）と来期業況見通しD Iではマイナス幅が拡大し、来期売上見通しD Iではプラスからマイナスに転じました。
材料価格の値上がりに加えて電気料金の値上げが負担となっている声が多くありました。

3、卸売業

- ・今期業況D Iは、前期比で△6.3（前期調査12.5）、前年同期比で△18.8（前期調査12.5）といずれもプラスからマイナスに転じました。
- ・売上D Iは、前期比で25.0（前期調査18.8）、前年同期比で△18.8（前期調査12.5）と前期比でプラス幅が拡大し、前年同期比ではプラスからマイナスに転じました。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△12.5（前期調査12.5）、来期売上見通しD Iは、今期比で25.0（前期調査12.5）と来期業況見通しD Iではプラスからマイナスに転じ、来期売上見通しD Iはプラス幅が拡大しました。
コロナの影響が続いてる、売価の値上げ以上に仕入価格が上昇しているといった声が多くありました。

4、小売業

- ・今期業況D Iは、前期比で△2.4（前期調査△32.6）、前年同期比で△14.3（前期調査△14.0）と前期比はマイナス幅が縮小し、前年同期比では、ほぼ横ばいでした。
- ・売上D Iでも、前期比で7.1（前期調査△15.6）、前年同期比で△11.9（前期調査△15.6）と前期比はマイナスからプラスに転じ、前年同期比でもマイナス幅が縮小しています。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△28.6（前期調査2.3）、来期売上見通しD Iは、今期比で△23.8（前期調査4.4）といずれもプラスからマイナスに転じています。
神在月による人出の増加や、出雲市の商品券効果によって売上が増加したといった声が多くありました。一方で物価高による利益圧迫を懸念する声も多くありました。

5、サービス業

- ・今期業況D Iは、前期比で20.9（前期調査0.0）、前年同期比で21.4（前期調査0.0）と前期比、前年同期比ともにプラス幅が拡大しました。
- ・売上D Iでも、前期比で46.7（前期調査△4.1）、前年同期比で15.6（前期調査10.2）と前期比はマイナスからプラスへ転じ、前年同期比ではプラス幅が拡大しました。
- ・来期業況見通しD Iは、今期比で△18.6（前期調査4.1）、来期売上見通しD Iは、今期比で△25.0（前期調査22.4）といずれもプラスからマイナスに転じました。

全国旅行支援により売上が増加したといった声が多くありました。また、出雲市二十歳の集い（旧名 成人式）の実施による経済効果があったといった声がありました。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|--|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は37.7%（前期調査39.6%）と前期調査を1.9ポイント下回りました。内訳としては、「機械・備品」が最も高く33.3%、続いて「OA機器」が21.2%でした。 |
| 建設業 | 実施割合は25.0%（前期調査44.4%）。「OA機器」の割合が最も高くなりました。 |
| 製造業 | 実施割合は53.7%（前期調査55.0%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。 |
| 卸売業 | 実施割合は20.0%（前期調査18.8%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。 |
| 小売業 | 実施割合は42.6%（前期調査39.6%）。「OA機器」の割合が最も高くなりました。 |
| サービス業 | 実施割合は31.3%（前期調査31.4%）。「機械・備品」の割合が最も高くなりました。 |

2、来期設備投資

全業種	設備投資を計画している事業所の割合は39.8%（前期調査43.5%）と前期調査を3.7ポイント下回りました。内訳としては、「車両運搬具」が最も高く25.7%、続いて「機械・備品」24.3%、「OA 機器」21.4%でした。
建設業	設備投資を計画している割合は58.6%（前期調査46.4%）。「機械・備品」「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。
製造業	設備投資を計画している割合は50.0%（前期調査58.1%）。「機械・備品」の割合が最も高くなっています。
卸売業	設備投資を計画している割合は31.3%（前期調査33.3%）。「車両運搬具」「OA 機器」の割合が最も高くなっています。
小売業	設備投資を計画している割合は33.3%（前期調査45.1%）。「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。
サービス業	設備投資を計画している割合は28.3%（前期調査31.4%）。「車両運搬具」の割合が最も高くなっています。

経営上の問題点

全業種	第1位は「需要の停滞、受注減少」で33.3%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」20.6%でした。
建設業	第1位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で39.1%、第2位は「単価の低下・上昇難」「人件費の増加」「仕入・人件費以外の経費の増加」で16.7%でした。
製造業	第1位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で30.3%、第2位は「需要の停滞、受注減少」で15.6%でした。

卸売業 第1位は「需要の停滞、受注減少」「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で43.8%、第2位は「単価の低下・上昇難」で20.0%でした。

小売業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で35.7%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で25.6%でした。

サービス業 第1位は「需要の停滞、受注減少」で35.9%、第2位は「材料（原材料）等仕入価格の上昇」で16.2%でした。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」、「好転」したなどとする企業割合から、「減少」、「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。